

2019年度 COC プラス事業 「のと共栄信用金庫」との共創インターンシップ

代表者名 ● 新広昭 (経済学部教授)

はじめに

地方創生に関する国の計画である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、人口の東京一極集中緩和のため、地方大学に学ぶ学生の地元定着の促進を図るとしています。その具体的政策として、全国的にCOC プラス事業を展開していますが、本学では平成30年3月に石川県信用金庫協会と包括連携協定を締結したこともあり、石川県七尾市に本店のある、のと共栄信用金庫(以下、「のとしん」と)の連携による協創インターンシップ事業を実施しました。

活動内容

インターンシップは2019年8月26日(月)～8月30日(金)の5日間実施しました。

参加した学生は、大学から3名(3年)及び短大から1名(1年)の計4名が参加しました。

本インターンシップの特徴的なプログラムとして、1日目に、鈴木理事長との懇談があり、4日、5日目に、七尾市・南大呑地区と共栄信用金庫が日本財団の「わがまち基金」からの助成を受けて取り組んでいる地方創生のための活動を調査に行き、同地区に飲食店を移転・立地しようとしている「千魚萬菜」の経営者の方へのインタビュー調査に基づくSWOT分析により移転先での集客戦略を立て、経営者にプレゼンテーション(還元)しました。

成果、結果の考察

経営者に対するプレゼンテーションの主旨は、『千魚萬菜で提供される料理は極めて質が高く特別感があり、強みであるが、情報発信力が弱く、強みを活かしてきれていないので、客のターゲット層である中高年の女性客にアピールするSNSとしてフェイスブックを活用した情報発信が効果的と考えられる。』というものでした。しかし、経営者にアカウント作成のスキルがないということであったので、学生が千魚萬菜のアカウントを作成しました。

アカウント名は「千魚萬菜」です。このことは、経営者にも大変感謝され、また、「のとしん」の担当者にも

大変高い評価をいただきました。



「千魚萬菜」のインタビュー調査



プレゼンテーション資料づくりの様子

学生も、信用金庫が地方創生に大きな役割を果たしていることを体験・理解し、信用金庫のイメージが大きく変わり、大変に有意義であったこと、自分たちの分析・提案・スキルが経営者に感謝されたことに感激したといった感想が大方でした。

今後の課題、展望

2019年度は、「のとしん」との協創インターンシップ事業をひとつのプロトタイプとして、他の県内信用金庫とのインターンシップ事業が展開されました。今後もこの取組が県下全域に拡大されることを期待したいと思っています。